20240918　物理学会領域10　IFMTG

日時： 2024年9月18日（水）17:30～

参加者： 三原基嗣（代表、X粒-μ・大阪大）、

筒井智嗣（副代表、フォノン・JASRI）、竹下聡史（連絡、X粒-μ・KEK）

フォノン： 浅野元紀（NTT）、松浦弘康（東大理）、島村孝平（熊本大）

誘電体： 深田幸正（JAEA）、是枝聡肇（立命館大）

格子欠陥： 上村直樹（京都先端科学大）、田中真悟（産総研）、西谷滋人（関学）、

田村友幸（名工大）、橋本由介（奈良先端大）

X線粒子線： 西村龍太郎（X・KEK）、萩原雅人（中・JAEA）、

中島宏（電・大阪公立大）、石田明（陽・東大理）、

滿汐孝治（陽・産総研）、友野大（μ・大阪大）

ZOOM参加： 小林先生、寺沢先生

**１．代表、副代表、運営委員**

　・各運営委員、及び連絡責任者の紹介がなされた。

　・次期副代表：田村友幸氏（名古屋工業大学）が承認された。

　・次次期運営委員推薦

　　フォノン　　：河村光晶 氏 東大情報基盤セ 承認

　　格子欠陥ナノ：上村直樹 京都先端科学大学 承認

　　誘電体　　　：喜久田寿郎 富山大学 承認

　　ミュオン　　：友野大 大阪大学 承認

　81-82期代議員推薦について

　　各分科から1名推薦。10月中に三原代表まで連絡のこと。

**２．各賞の推薦依頼状況**

・若手奨励賞：2名上限のところ1名応募があった。

　領域10で推薦がふさわしいと判断されれば、  
　10月の理事会で決定し、領域代表を通じて受賞者へ通知される。

　若手奨励賞細則

　　委員をWEB似て公表することになっているが、現在公表されていない。

　　今回から公表する。

・論文賞：10/25締切で募集中

・米沢賞：10/25締切で募集中

**３．データ**

・概要提出率：講演者数123名は前回を上回っている。概要集提出率93.4%。

・講演数：若手奨励賞の受賞数に該当する。平均100件程度で推移

**４．学生優秀発表賞**

　9/26　大会締切

　今回11名有資格者（26名申し込み）

　2022秋に受賞されている人が応募している。2年間は受賞できない。

　2年前の秋を含めるのかどうか？

　　受賞の日付はいつか？　理事会マターでは？

　　3月に受賞した時は3/31となっていた（受賞者確認）。

　　2年間と言うのは1年半ではないという理解では。

　　今回決めたことはWEBに注意書きする。

　　2年前の発表は含めない（今回の方は該当者となる）として承認された。

**５．領域員会報告**

・各企画、招待、合同講演など

　今回領域10から共催シンポジウムを提案した。

　合計15件

・計算物理領域について

　試行するにあたり、WGが設置されることとなった。

　領域から2名出す。

　以前メールで連絡した通り、領域10は正副代表メンバーとなることとなった。

・物理学会からのサポートレターの発出。

　物理学会としてサポートすることとなった。

・概要の英語化について

　外国人の参加のハードルになっている。英語表記の概要集を作るように要望有。

　各領域で議論。

**６．格子欠陥・ナノ構造分科、フォノン分科合同ＩＭ**

・格子欠陥・ナノ構造分科、フォノン分科共に存続していく

　最大の問題は次の運営委員を探すのが大変という背景。

　分科は継続することとなった。

　歴史的経緯から、合同にもならないこととなった。

・格子欠陥・ナノ構造分科

　アンケート作成することとなっている。

・フォノン分科

　任期を変えずにいく。ただシステマティックに運営委員を探せるような仕組みを考える。

・コメント

　同じ大学で運営委員が回っていたことがある。発表数を増やすようなお触れが出たこともある。

　やむを得ないので任期を伸ばすのはよいのでは。

　格子欠陥は2016年ごろに大きく減ったがその後は同じような件数で推移（オンライン開催を除く）

　合同セッションをすれば、件数としてはどちらの分科にもカウントされる。

　合同セッションは分科の名前は出ないのでは？

　宣伝効果はある。

　次回シンポジウム（領域10提案）は承認された。

**７．シンポジウム提案について**

　次回シンポジウム（領域10提案）は承認された。

**８．計算物理ワーキング**

　計算物理ＷＧの現状について報告があった。

　2025年度の年会での発足を目指している

　領域代表＋運営委員の会議を開催予定

　後の運営委員の負担が増えるが、今後の運営委員の為に積極的に関わっていただきたい。　秋の領域委員会（11月）ごろに何か議題がある可能性がある。ＷＧについては不明。

　各資料をご確認いただき、メール等でご意見頂きたい。

**９．サポートレターについて**

　共同利用。共同研究拠点の認定もこの考え方に準ずる。

　十分議論された関連する大きなプロジェクトについてサポートレターを発行できる。

　物理学会は誰に対して出そうとしているのか？：大型プロジェクトを推進する人。

　プロジェクト推進者が物理学会に申し入れるのか：そうである。審査の上で。

　国内限らず海外に応募するようなときもサポートされるのか？：条件は物理学会の会員であることのみである。ので含まれるのではないかと考えられる。

　どのくらいの規模のものが対象なのか？：そういった質問を投げかけることができる。

　具体的な例があれば理解しやすい（規模感など）。

　どれくらいの重みがあると想定されているのか？：誰に読んでもらうかによる。

　どういう取り扱いをするつもりなのかが明確でない：そういう意見は領域委員下でも上がっていた。

　誘電体分科での意見等

　　サポートレター自体の経緯：サポートレターと言う名前ではなかったが抱いてないことは無いのでは？経緯が知りたい。

　　サポートレターの発出方針案：5名程度の理事に判断を依頼とあるが、この理事が判断するという理解でよいか？どうやって決めるのか？理事がサポートレターのメンバーで良いのか。5人程度というあいまいさを残す方が良いのか？5人なら5人に決めてしまった方が良いのか？

　領域7でも話題になった。とある先生が、色々サポートレターを出すが、物理学会だけが無いので、書いてもらえると助かる。

　後日気づいたことは三原代表まで連絡を。11月の領域委員会までに。

**１０．概要原稿の英語化について**

・どのような形が良いか？

＠誘電体分科

　概要部分を英語化するという理解でよいか？その前提で、外国人も日本語を書く必要があるか？<=それはない。

　英語版を作るとなった場合に、Mustになるのか？Mustになるとエフォートが必要なので講演概要が集まりに憎くなるので、Must出ない方が良い。

＠フォノン分科

　学生のMustにすると、いやになるのではないか？応物なら3行位をWEBで入力するようになっている。

　APSはもう少し短いAbstが、そういうものにしていくのか、今までと同じとするのか。APS的なやり方でよいのでは。

　2ページにして1.5ページ日本語、0.5ページ英語（タイトル込）という学会もある。

　スライドも英語化するような話も出てくる可能性がある。

　実際やった場合にどのくらい外国人の参加者が増えるのか？そういった見込みやデータがあると判断しやすいのでは？エフォートとのバランスである。

　留学生・外国人PD等を抱えている先生がどのくらいいるのか？

**１１．その他**

・学生優秀発表賞の審査基準の緩和について

（前回の意見）

　1回目の発表で応募可としてはどうか？or2回目のままでよい？

　1回目は他領域での発表でもよいのでは？

（意見）

　もともと対象者が少なかったのでこういう意見がでた（前回は2名だった）のでそのままでも良いのでは？

　領域7では、ポスター賞を選んだが、審査委員は色々な先生に頼んだ。色々な先生の領域7を見てもらう、というメリットがある。

　審査員については決まっていないので、時の領域代表の判断。

　陽電子では、1回目に筆頭で発表するという条件があるが、筆頭でなくてもよいとすれば？<=「発表賞」なので、必ずしも筆頭で発表している必要はあるのか？

　1回目は他領域でもOKとするのがよいのでは？

　次回は他の先生にも審査を依頼するのも検討する。

　もともと学生の発表を増やすのが目的だったと思うが、実際増えているのか？：増えている。

　前回は春でZOOM開催なので学生は少ない。

　=>引き続き今の要件のままとする。

　他領域での発表も認めるか、についてはどうするか？

　　領域を移っていくケースもあるので、1回目は他領域でも良いのでは？

　　実際他領域で発表していた研究室の学生が、領域10で発表している学生もいた。

　　他の領域でもOKとすると、  
　　（1回目他の領域で）実質的に初回でOKと言っているのと変わらないのでは？

　　領域10に定着して発表している人に上げたい、という意図があった。

　　色々めぐって今の条件がよいのでは？

　　領域8は3回目のはず。領域7は1回目の発表でOK。

　　もらうことで励まされるケースもある。

　　資格もれした方に、次回応募してください、という連絡をするのが良いのでは。

　　領域10の元の文章とウェブの文章に少しずれている。

　ホームページでは学会員であることと記載があるが、pdfには記載がない。

　　必要に応じて補足していった結果、ずれが生じている。

　　pdfに反映させて承認を取る必要がある。

　学会申し込みサイトにも資格を確認しておく旨、記載してもらう？

　学生賞応募について

　　学生が申し込んだかどうか、指導教員がわからない。指導教員がわかることも必要。

　　申し込みに入力時に学会にお願いしてみるのもある。WEBサイトを変えてもらう。

　　他領域でも賛同が得られるのでは？指導教員にもメールを自動で送られる。

　　指導教員が感知しなくてもチェックできる方が、応募が増えるのでは？

　　それで、運営委員の仕事が増えるのはどうか？指導教員に視させるのも用意のでは？

　　領域の事情を知らない先生もいるので、領域側でcloseしてもよいのでは？

　　資格を満たしていることを確認した、と言うボックスを付けてもらうのがよいのでは？

・キーワード「カイラルフォノン・カイラル構造」について

　次回領域委員会で提案予定

・超秩序構造に担当ついて

　次の4月で学術変革は一旦おわるので、元のやり方に戻ってよいのでは。

　領域10で勝手にやってよい　橋本先生から代表に連絡してもらう。

　キーワードは残す。

・MLについて

　連絡委員から直接投げるようにしてもらう。各MLに全運営委員の先生がメールを投げられるようにしてもらう。